

日本語版 取扱説明書

TECH 21 · NYC

SANSAMPTM MODEL PSA-1 USER'S GUIDE



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡1958

TEL: 0476-22-9333 FAX: 0476-22-9334

はじめに

1. 楽器をフロント・パネルの左側に設置されている入力端子に接続してください。
2. シールドを後ろの出力端子からアンプ、パワーアンプ、ミキサー等の入力端子に接続下さい。
3. ACコードをコンセントに挿して下さい。これで PSA-1 に電源が入りました。
4. アンプまたはミキサーの電源を入れて下さい。(この時ミキサーがモニターやレコーディング機材等に接続されている場合そちらの電源も入れて下さい)
5. アンプかミキサーの入力レベルを上げて下さい。入力信号が強すぎたり弱すぎたりする場合、アンプかミキサーの入力コントロールまたは SansAmp PSA-1 の出力レベルスイッチを使って調節して下さい。
6. ここでギターを弾くと、システムを通して音が出るはずですが。音が出ない場合は、接続を再度確認しギターのボリューム・コントロールが上がっている事を確かめて下さい。
7. Up/Down ボタンを使いプログラムを選択します。前半(01 ~ 49)は初期設定となり、後半(51 ~ 99)は独自の設定を保存する事が出来ます。初期設定では(01 ~ 49)と(50 ~ 99)が同じセッティングとなっています。

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

各部の説明

フロントパネル



SansAmp PSA-1 はチューブ・アンプのような幅広い音を作り出すことができます。このようなコントロールは今まで存在せず、アンプその物を改造しなければなりません。音作りの際は各種キャラクターのコントロール (Buzz、Punch、Crunch、と Drive) を使うことによりポスト・EQ (Low と High) とはまた違った音色を得る事が出来ます。

ゲイン構造：

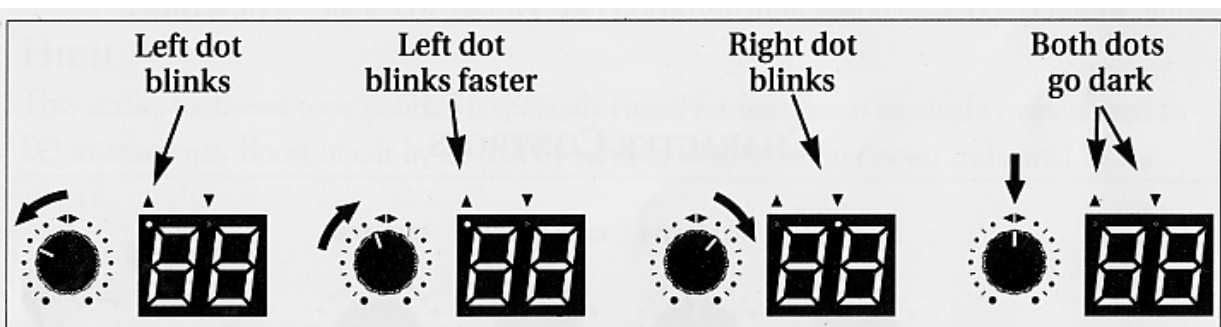
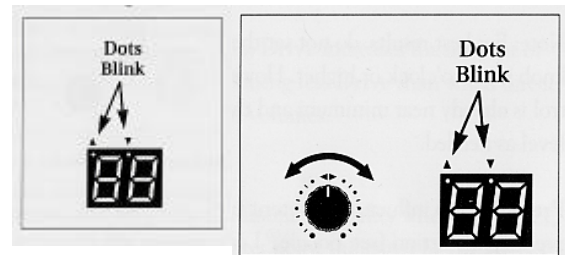
プリ・アンプ・コントロールを使う事によってドライブとはまた一味違うオーバードライブを作り上げる事が出来ます。また、Buzz、Punch、Crunch を使用すれば一つずつ特定の周波帯を調節する事が出来ます。色々試しコントロール同士の関係を理解し、気に入った音を作り上げたら PSA-1 のメモリーに保存してください。

PSA-1 はプログラム可能：

全ての動きを PSA-1 内蔵のコンピュータがモニターしてくれます。つまみをメモリーに保存されている位置と違う設定にすると LED が点滅します。保存されている設定数値より低いと左の LED が点滅します。

保存されている設定数値を越えると右の LED が点滅しま

す。保存されている数値から離れば離れる程点滅が遅くなり、近づくと点滅は早くなります。設定数値と一致した時点で LED が消灯します。この機能は保存した設定を探す時に大変便利です。

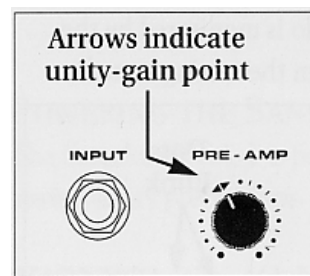


入力端子：

PSA-1 の入力端子はインピーダンス・バッファを装備しているため、ギター、ベースのピックアップまたは他の楽器からの信号の音質を下げることなく受信できます。入力端子は前後に1コずつ装備しています。(注意：フロント・パネルの入力端子を使用することで、後ろの入力端子がバイパスするように設計されています。)

プリ・アンプ :

入力感度コントロールです。このつまみで受信される信号レベルを調節できます。つまみの回りの矢印 2 つがユニティー・ゲイン・ポイント(ブーストもカットも無し)の印となります。高出力楽器を使用しクリーンな音を求める場合はプリアンプを下げてください。プリアンプの設定をあげる事によってオーバードライブが掛かるようになります。

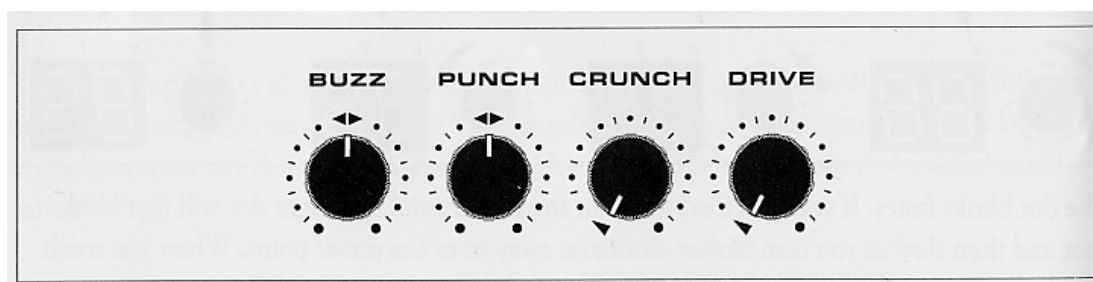


NOTE: Drive のつまみを 9 時以上の位置に設定している場合、ユニティー・レベルを切らないように設定してください。透き通った音を求める場合、Drive を最低まで下げて下さい。それでもオーバー・ドライブが掛かる用でしたらプリ・アンプを使い調節してください。

Pre-Amp はオーバー・ドライブにも影響を与えます。プリアンプの高設定でプリ・アンプ・ディストーション(Boogie Lead-style setting)。反対にドライブをあげる事でパワー・アンプ・ディストーション(Vintage Marshall-style setting)をシミュレートします。

キャラクター・コントロール :

常にキャラクター・コントロールはトーン、ゲイン、ハーモニクス等の内容に変化を与える事が可能である。



Buzz : このつまみは低域の歪とオーバードライブをコントロールします。ブーストするには右、カットさせるには左に回してください(±0 は 12 時の位置です)。クリーンな設定を求めているのであれば少しずつ上げていきましょう。ディストーションを掛けながら、鮮明度を求める方には、Buzz を中間点以下に設定してください。

Punch : このつまみは中域の歪とオーバードライブをコントロールします。ブーストするには右、カットさせるには左に回してください(±0 は 12 時の位置です)。カットするとフェンダー・スタイル、ブーストすると重量感溢れるディストーションが可能です。

Crunch : このつまみは高域ハーモニクスとピック・アタックを引き出します。下げると高域が柔らかくなります。

Drive : このつまみはパワーアンプ・ディストーションをコントロールします。ライブではレコーディングでの設定より低くする事をお勧めします。

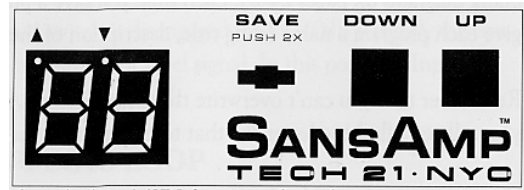
Low : 低域を ±12dB カットまたはブーストします。

High : 高域を ±12dB カットまたはブーストします。

レベル : この一つのみで XLR とフォン端子のレベルを調整できます。

2桁LEDディスプレイ :

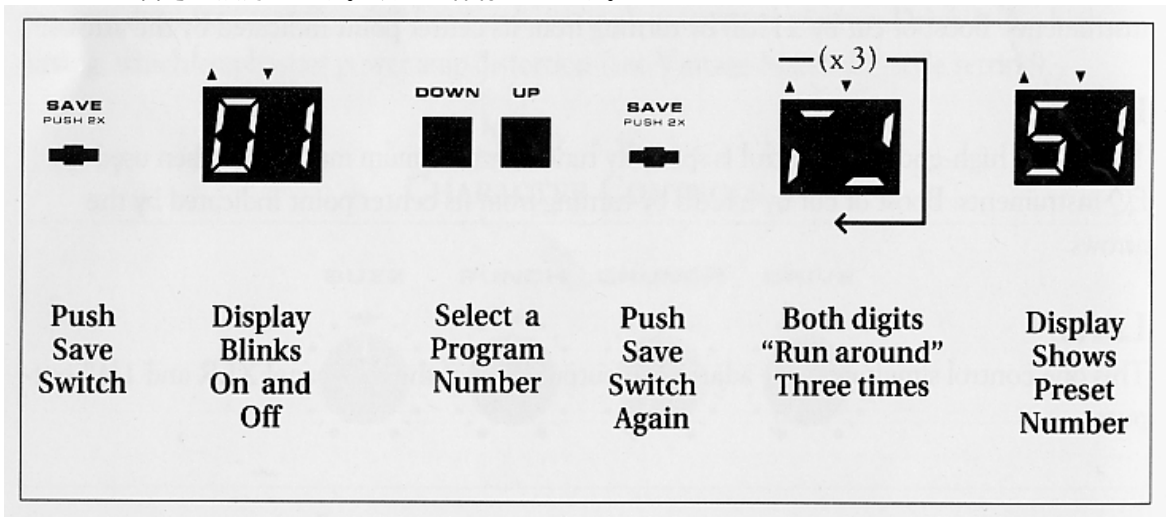
どのプログラムを使用しているか、設定が変化したか、プログラムが保存されたか、MIDI ファンクションが使われているかを表示します。



SAVE SWITCH : このボタンでセッティングを保存する事が出来ます。スペシャル・ページ・メニューもこのボタンでアクセス可能です。誤ってボタンを押さないよう、フロントパネルより奥に設置されております。ピック、鉛筆の先、爪などを使って押してください。

SAVING A PROGRAM : お気に入りの音を作り、その音を保存するには

1. Save Switch を一度押してください。ディスプレイの数字が点滅します。
2. Up/Down スイッチを使いプログラム番号(51~99)を選んでください。
3. Save Switch をもう一度押してください。ディスプレイ内の数字が3回「回り」先ほど選んだプログラム番号が点灯します。以上で保存できます。



注意 :

1. プログラムをオーバーライトしてしまうと呼び戻せないで、気を付けてください。書き換えようとすると、“E”(エラー)と表示されます。

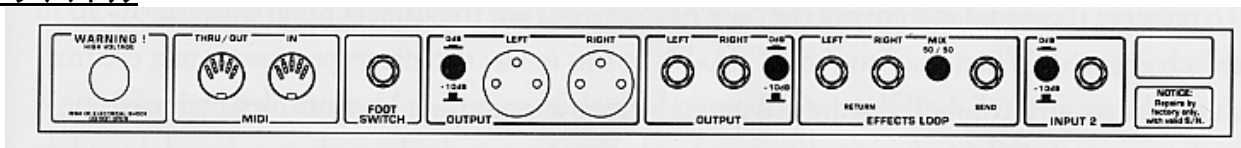
2. ファクトリー・プリセット(00~50)は書き換える事は出来ません。

ノート: カスタム・プリセットはコンピュータ、シーケンサー等にオフ・ロードできます。

DOWN SWITCH : 一度押すと一つ下のプログラムに移動します。押しつづけると素早く下のプログラムに移動します。

UP SWITCH : 一度押すと一つ上のプログラムに移動します。押しつづけると素早く上のプログラムに移動します。

リアパネル



入力端子 2 : 入力端子 2 に接続する事で PSA-1 の入力回路と入力信号レベルがベストの状態になり、S/N 比を最良に保ち不必要なディストーションが無くなります。これはラックやパッチベイ・アプリケーションを使用していると理想的でありシグナル・プロセッサなどを PSA-1 の前に使用する現場では特に活用するでしょう。

Note: アクティブ・ベース・ギターなど入力レベルが高い物は入力レベル・セレクターを 0dB にしてください。

レベル・セレクター・スイッチ : このスイッチを使えば色々な信号レベルの機材と組む事ができます。2 つのポジションからお選びください。

0dB Position : 入力パッドが適用される。ラインレベル信号を送る時にこのポジションを選んでください。

-10dB Position : 入力パッド・スイッチが適用される場合、リア・パネル上の Input2 端子は楽器用信号を受ける体制となります。このポジションを選ぶと入力端子 2 の入力感度はフロント・パネルの入力と同じレベルになります。

エフェクト・ループ

エフェクト・センド : この端子で PSA - 1 の信号はプロセッサなどに送り出されます。この端子にケーブルが挿されていないとバイパスされ出力端子に送られます。

MIX 50/50 SWITCH : 「フォン端子センド」を選んでいる時は、100%の信号が PSA-1 のプロセッサを通るが、50/50 を選択すると 50%の信号が外部プロセッサを通り、残りの 50%の信号は直接フォン端子、XLR 出力に送られます。

RIGHT RETURN : モノラル・エフェクト・プロセッサを通す時 PSA-1 の RIGHT RETURN を使用してください。こうする事によって、左右の出力端子に信号が送られます。

LEFT RETURN : この端子は二つあるステレオ・リターンの中の一つです。シグナル・プロセッサの一つしか出力端子が無い場合 RIGHT RETURN を使用してください。

UNIVERSAL OUTPUT SECTION

この出力はフル・レンジでもリミテッド・レンジどちらでも使用可能です。

フォン端子出力レベルスイッチ : このスイッチを使って出力レベルのレンジを選択します。0dB はラインレベルで出力されます。-10dB は出力レベルが楽器レベルです。

フォン出力端子 : この左右に分かれているフォン端子は PSA-1 から出力されます。これはエフェクト・ループの間に接続されているエフェクトも含みます。出力レベル・スイッチで 0dB と-10dB から選択できます。

XLR 出力 JACKS : PSA-1 には 2 つ XLR 出力が装備されています。この出力端子はトランスを使用していないので、高品質な音を送り出す低インピーダンス出力を搭載しています。XLR 出力端子とフォン出

力端子は同時に使う事が可能です。最低出力インピーダンスは 600 Ω です。

XLR 出力 LEVEL SWITCH : このスイッチを使えば色々な信号レベルの機材と組む事ができます。2つのポジションから選択してください。

0dB Position : ラインレベル信号を送る時にこのポジションを選択します。

-10dB Position : 楽器レベル信号を送る時にはこの設定を選択します。

Note: スタンダード出力レベルは、デジタル録音機の普及で 0dB になっています。これによりデジタルレコーダーのオーバー入力を阻止します。

FOOT SWITCH

PSA-1 はラッチタイプのフットスイッチを使用できます。詳細につきましては p11 をご覧になってください。

MIDI

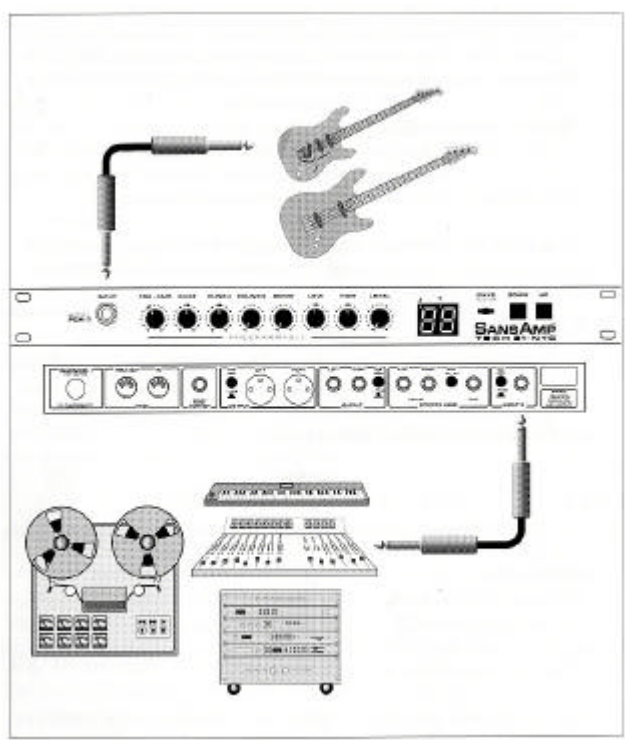
MIDI IN : この端子は MIDI 信号用です。プログラム・チェンジや MIDI データ・ダンプを行えます。

MIDI THRU/OUT : この端子は普段 MIDI Thru として機能します。これで PSA-1 を通る MIDI データが他の MIDI 使用機材にも通る事ができます。

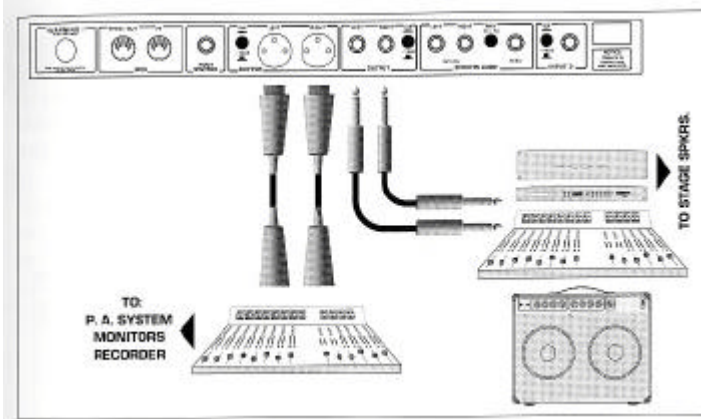
NOTE: スペシャル・ファンクションを使用することで MIDI Thru を解除する事も可能です。もしカスタマイズされたプリセット・データや MIDI マップデータを放出する際は、この端子が MIDI 出力の役目を果たします。

接続例 :

1. フロントパネルの入力端子はギター、ベース、キーボードなどの楽器の信号を受信するために設計されています。PSA-1 をラック・システムに組みこんでしまい普段接続している入力端子をリア・パネルに挿して下さい。直接ギター等を接続したい場合フロント・パネルの入力端子を使用する事が出来ます。こうする事で、リアパネルの接続をオーバーライドする事が出来ます。

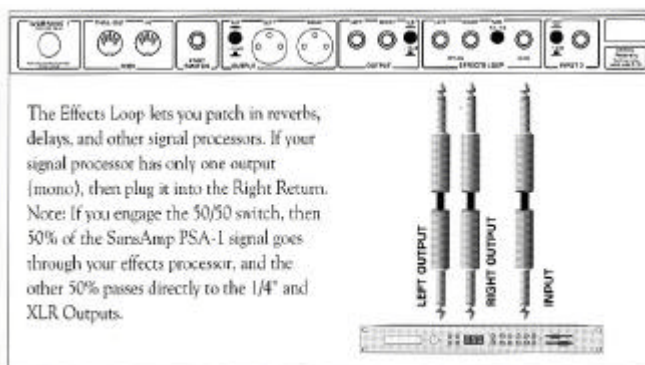


2. PSA-1 はデュアル・フォン・アンバランス出力端子と XLR バランス出力端子を装備しているため、さまざまな機材と相性が合います。XLR 出力端子はプロ用機材 (PA システム、ミキサー、シグナル・プロセッサ等) に最適です。フォン出力端子はほとんどのミキサー、シグナル・プロセッサや楽器用アンプ等と接続可能です。

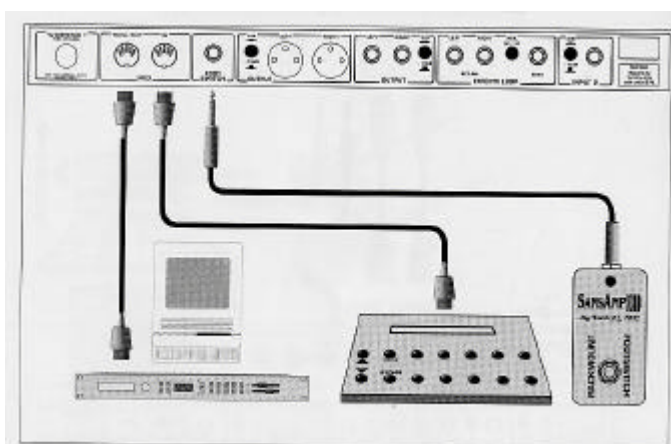


3. エフェクト・ループはリバーブ、ディレイ、シグナル・プロセッサ等を接続できます。シグナル・プロセッサが出力端子を 1 つしか装備していない場合 (モノラル)、右リターンへ接続してください。

50/50 スイッチを作動させた場合 PSA-1 信号の半分がシグナル・プロセッサを通り、残りの半分は直接フォンまたは XLR 出力へ送信されます。



4. MIDI 機材 (フットスイッチ、シグナル・プロセッサ、キーボード、コンピューター等) は全て PSA-1 に接続出来ます。MIDI IN は Program Change command, MIDI Map, Program Dump 等を受信します。MIDI Thru/Out 端子は MIDI 信号が送信されている時意外は、MIDI Thru として設定されています。ラッチ・タイプ・フットスイッチであれば PSA-1 のループ・カウントを行えます。



スペシャル・ページ・ファンクション

UP/DOWN スイッチのみでは使えないとてもパワフルで便利な機能が隠れています。特に MIDI フットスイッチや他の MIDI 機器を使用している方は読んでみてください。

スペシャル・ページ機能を使用するには、プログラム 00 を選び SAVE ボタンを一度押してください。LED 内の二つの点が同時に点滅しているはずですが、UP/DOWN を使い次のファンクションから一つお選びください。



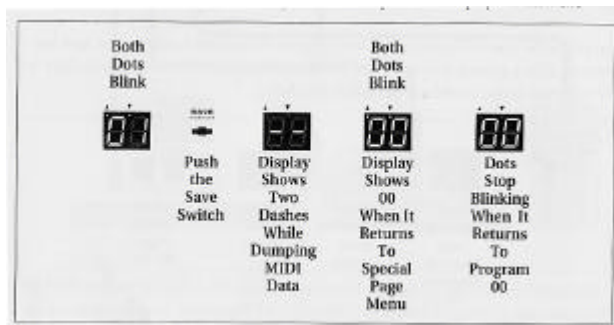
- 00 スペシャル機能をやめる
- 01 カスタム・プリセット・データを MIDI ポートからダンプする
- 02 Define MIDI Mapping
- 03 フットスイッチのループ・カウントを設定する
- 04 Set Fixed/Programmable Swap Bit
- 05 MIDI チャンネルをセットする
- 06 Software Revision Number
- 07 MIDI マップを MIDI ポートからダンプする
- 08 Disengage All Pots
- 09 MIDI Thru 解除

決定はセーブボタンをもう一度押してください。もし「00」を選択した場合、スペシャル・ページ・ファンクションを出て、バイパス・プログラム 00 に戻ります。

1. カスタム・プリセット・データダンプ

カスタムプリセットを別の PSA-1 または外部 MIDI 機材にデータをオフ・ロードできます。片方の MIDI ケーブルを MIDIThru/Out に繋げて、もう片方を別の PSA-1 シーケンサーの MIDI 機材に繋げてください。

Save ボタンを押すとダンプを始めます (PSA-1 同士の場合は自動的に感知しダンプをはじめます) シーケンサーやコンピュータが自動的に MIDI データを受信できるようにし (2 台目の PSA-1 は自動的にデータをダンプ及は継承する) SAVE キーを押します・「00」が表示されるとダンプの完了です。ダンプこのスペシャル・ページ機能に戻ります。ここで新しいスペシャル・ページ機能を選択するか「SAVE」を再度押してプログラムを出ます。15 秒以内に選択しないとディスプレイは点滅しないまま「00」に戻ります。

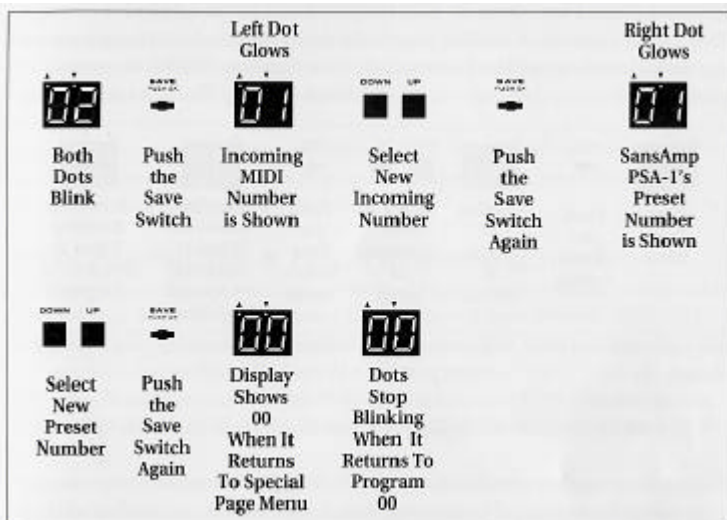


2. MIDI マッピング

内蔵の MIDI マッピングの設定を行います。この機能によって MIDI プログラム・チェンジコマンドに対してどのプログラムを呼び出すかを設定します。もし MIDI フット・コントローラーが 26 番のプログラム・チェンジコマンドを出力し PSA-1 に 15 を呼び出したければそのメッセージをマップすることが出来

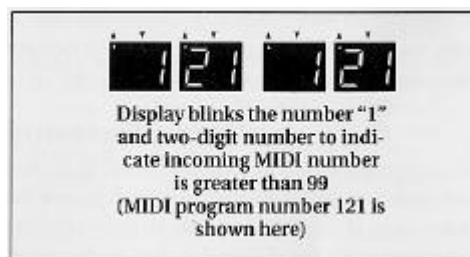
るということです。初期設定の MIDI マップにおいては受信されるプログラムは表示されるプログラムとなります。例えば MIDI01 はプログラム 01 を呼び出します。PSA-1 は 100 プログラムあるので 99 以上の

数値が入力されると自動的にリルートされます。(100 は 0、101 は 1 など) はじめに 02 を選び Save を押してください。1 回目に表示される数字が incoming program です。UP/DOWN スイッチを使い、新しい数字を選択してください。これが新しい incoming number になります。Save スイッチをもう一度押してください。PSA-1 のプリセット番号が表示されます。UP/DOWN スイッチを使い、新しい数字



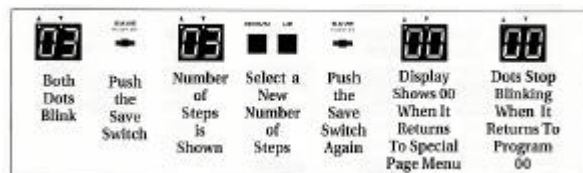
字を選択してください。Save スイッチをもう一度押してください。スペシャル・メニューに戻ると「00」を表示します。

ディスプレイ表示は 2 桁までとなるため、3 桁のプリセットを選択した場合には、始めに最初の 1 桁が表示され、その後に最後の 2 桁が表示されます。



3. フット・スイッチ ループカウント

ラッチタイプのフットスイッチを使用することで好みのプログラム数を設定し、ループさせることができます。初期設定は 3 ステップになっていますが、好みに応じて変更することが出来ます。例えばプロ



グラム・サイクル 4 は 00・01・02・03・00・01・02・03・00 などと変わっていきます。最大 100 プログラムまでのループが可能です。しかし実用的な使い方はもっと少ない数をループすることです。SpecialPageFuncetion3 を選択すると、ループカウントの現在の設定が表示されます。ここで UP/DOWN スイッチを使いループ・カウントを変更してください。スペシャル・メニューの「03」を選択してください。Steps の数が表示されます。UP/DOWN を使い新しい Steps の数を選択してください。Save スイッチをもう一度押してください。スペシャルメニューに戻ると「00」が表示されます。

MIDI FOOT CONTOROLLER と一緒に使うことによってとても便利な組み合わせになります。MIDI FOOT CONTOROLLER で好みのプログラムを選択します。そしてラッチタイプ・フット・コントローラーで設定された数だけループします。2 プリセットのループを設定して、リズムとリードを 1 チャンネルづつ作ります。この組み合わせをいくつか事前に作っておくことによって、1 曲 1 セットで演奏し次の曲に行く際、次のプリセットの組み合わせに行くだけでリードとリズムが簡単に行えます。

4. カスタムセッティングとプリセットの切替え

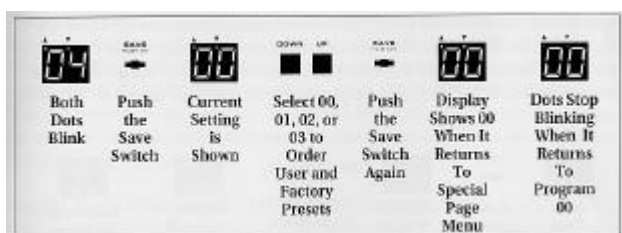
この機能で、初期設定とユーザーカスタム設定の位置を変えることができます。スペシャル・メニュー「04」を選択してください。Saveスイッチを押してください。現在のセッティングが表示されます。00,01,02,03一つ選んでください。Saveをもう一度押す事で決定します。

00：プリセット 00～49；カスタム設定 50～99

01：カスタム設定 0049；プリセット 50～99

02：プリセット 00～49；カスタム設定 50～99+メモリ・プロテクト

03：カスタム設定 0049+メモリ・プロテクト；プリセット 50～99



メモリ・プロテクト設定（02・03）ではユーザーカスタム設定は上書きできません。また初期設定はどの設定を選択しても上書きできません。

5. MIDIチャンネルをセットする

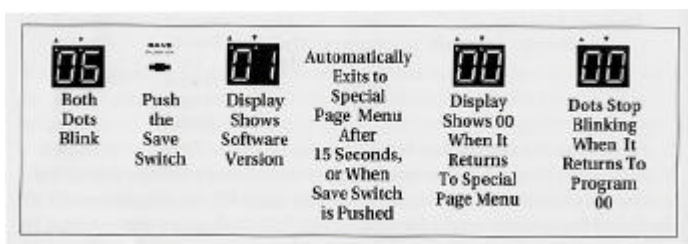
この機能で PSA-1 がどの MIDI チャンネルで MIDI データを受信するかを設定します。Omni（どのチャンネルでも受信できる状態）か 1～16 チャンネルの一つを設定できます。スペシャル・メニュー「05」を選んでください。



Saveスイッチを押すと現在設定が表示されます。oはOmni,またはチャンネル1～16を選択しセーブ・スイッチを押してください。これで設定完了です。

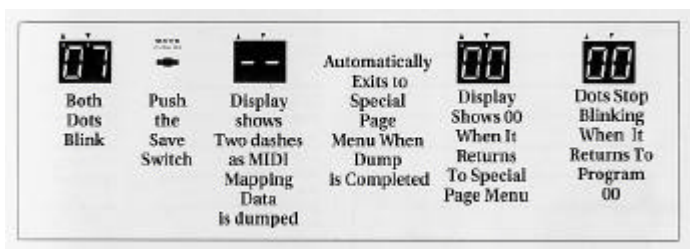
6. Software Revision Number

ソフトウェアのバージョン情報を表示します。「06」を選んでセーブを押すとバージョン情報を表示します。15秒後にスペシャルメニューに戻ります。



7. MIDI MAP DUMP

マッピング・データのみをダンプしたい場合、片方の MIDI ケーブルを MIDIThru/Out に繋げて、もう片方を別の PSA-1、または MIDI 機材に繋げてください。「07」を選択し、Save ボタンを押して決定します。データのダンプが終了したらスペシャルメニューに自動的に戻ります。



8. DISENGAGE ALL POTS

この設定を選ぶとフロント・パネルのつまみを inactive にします。パフォーマンス中に間違っ
て設定が変わると言う事が無いようにです。

00 = ノーマル作動 01 = All pots engaged

9. MIDI THRU DISABLE

この設定を選ぶと MIDI Thru/Out を無効にできます。

00 = ノーマル作動 01 = MIDI Thru/Out 無効